

平成 30 年度 第 3 回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成 30 年（2018 年）11 月 12 日（月）午後 2 時 30 分～4 時 30 分

2 場 所 長野県白馬高等学校会議室

3 参加者 7 名（欠席 3 名：武田委員、岸委員、横澤委員）
（松本委員代理者：荻澤隆小谷村副村長）
この他、長野県教育委員事務局高校教育課 2 名
白馬・小谷両村関係者 4 名
白馬高等学校職員 3 名



4 次 第

- (1) 開会の言葉
- (2) 長野県教育委員会あいさつ（上野高校教育課高校改革推進係長）
- (3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）
- (4) 報告事項
 - ① 学校の現状報告（臼井校長）
 - ② 白馬山麓事務組合白馬高校支援係からの報告（松澤局長）

【質疑・応答】

<下川委員>

- 校長から夢のある明るい話やさまざまな取り組みが報告された。白馬高校の皆さんが頑張っていることに対して感謝申し上げる。何か課題があればお話しいただきたい。

<臼井委員>

- 国際観光科が 3 学年そろい、3 学年にわたる幅広い教育活動を実践する中で、個々の教員の負担が増している。学校規模ゆえ少ない教員で無理をしている部分もあると感じている。

<横川委員>

- 中学校に生徒が説明に出向くことは、白馬高校を身近に感じられる良い取り組みだと思う。
- 12 月に 6 か国の生徒との交流がある。我が家も含め海外の生徒を受け入れたい宿は 8、9 軒あるが言葉の壁を感じ躊躇する面もある。英語を学んでいる白馬高校生が関わってくると心強い。生徒に協力してもらうことは可能か。

<臼井委員>

- ボランティアという形で希望者を募ることは可能だ。遠慮なく相談していただきたい。

<加藤委員>

- AO 入試の結果は大変素晴らしい実績だ。具体的にどういうことをアピールして大学側に高く評価されたのか聞きたい。小谷中学校でも白馬高校国際観光科の各学年の取り組みを見習い、単なるテクニックではなく、生徒が実体験や学習の延長線上に発信できるものを作っていく。その部分を含めて教えていただきたい。

<臼井委員>

- 地域課題の発見と解決について、学校の授業のほかに公営塾で学んでいる生徒もいる。実際にフィールドワークに出て、自分の頭で考え、仲間と協力して課題を発見し、解決していくというプロセスが高い評価につながっているのではないかと考える。

<白戸会長>

- 地域課題に関する白馬高校生の取り組みは他の高校に比べ長じていると思う。勤務先の大学でも地域課題について学生に考えさせている。大人でもそうだが、会議室で考えていても地域の

課題は見えて来ない。日常的に地域に接し、人と交わる中で、問題点を発見する肌感覚が必要だ。白馬高校生は企画や行事等で地域との関わりが多い。365 日地域の中にあり、地域の方々と関わっていることが強みになっていると考える。同じような取り組みをしている本県の飯田 OIDE 長姫高校などをモデルに文部科学省が地方の高校を拠点にした地域づくりの事業化を検討している。白馬高校でも国のモデル事業の指定を受けることを検討したらどうか。

<荻澤委員>

- 先ほど、校長から教員の負担が増えているとの発言があった。県教委も白馬高校にいろいろ支援をしているが、この様な活動を長く続けるために教員の増員を検討していただければと思う。

<上野係長>

- 教員が自主的・主体的に取り組んでいることに敬意を感じている。人員の配置については白馬高校の現状を踏まえて全県的な視野の中で考えていきたい。

<宮嶋委員>

- 地域の保護者として子どもたちと話すことが多いが、小中学校への進路通信などの配布により白馬高校への関心が高まり、中学生はもとより小学校低学年の子どもたちからも地元の高校に行きたいという声を耳にすることが多くなった。地元中学校卒業生による出身校での学校案内は地元からの進学者を増やす上で最も有効な取り組みであり、ぜひ今後も継続してほしい。

(5) 公営塾「しろうま學舎」の新たな取り組みについて

- ・白馬山麓事務組合白馬高校支援係、公営塾より報告（齋藤主査・渡辺塾長）

【意見・感想】

<荻澤委員>

- 学校と公営塾の連携をさらに強化し、進路指導についても塾と学校の連絡をいっそう密にして、より効果を上げられるようになると良いと考える。

<下川委員>

- 公営塾の頑張りに対し、大変ありがたいと思っている。両村としても引き続き支援に努め、「白馬高校に行って良かった」と思ってもらえる取り組みにしていきたい。

<臼井委員>

- 英語検定取得、AO入試とも塾の支援あつての成果である。連携のあり方や方法が一番の課題だと思っている。公営塾と学年や教科との打合わせは定期的に行っているが、さまざまな部分で個人情報についての問題もある。それを乗り越えながら生徒や学年が望んでいることを確実に共有、連携し、一番効果が上がる形にしていきたい。

<白戸会長>

- 学校の先生方の負担という話があったが、白馬高校には公営塾があることが非常に重要で、生徒の進路指導の上で公営塾が有効な力になると良いと思う。
- ここ数年で大学入試そのものが大きく変わる。入試制度改革では、高校の調査書も変わり、記載事項についてのエビデンスが求められるので、高校での推薦入試に対する受験指導もさらなる対応が必要になる。従って、今取り組んでいることが極めて重要になると思う。公営塾の先進的な取り組みを今後とも継続願いたい。

(6) その他

- 第4回学校運営協議会は来年2月18日（月）午前10時から12時に開催の予定。

(7) 閉会の言葉